

大妻中野・父母後援会 presents _保護者対象講演・セミナー_mini archive

大妻中野・父母後援会では、毎年2回、各界でご活躍の方をお招きし、保護者の方を対象にした講演を行っております。本校の保護者の教養や教育への理解を深める上で大変に好評を得ております。過去の講演会の概要を示します。

平成23年度 第1回講演会 2011年9月24日（土）実施

演題：「震災取材報道秘話 - 阪神大震災・東日本大震災を取材して」

講師：齋藤 秀夫 先生 元NHKエグゼクティブ・カメラマン、早稲田大学講師、

概要：「十勝沖地震」「阪神・淡路大震災」、「東日本大震災」と3度の大震災取材を体験し、それを報道した立場から、取材の困難さや報道に現れない震災の実態をお伝えすると共に、それを踏まえて、防災に向けてメディアは何ができるか、何をしなければいけないのかをお話し下さいました。さらに震災を取材して見えてきた震災対策とはどうあるべきかについて、参加保護者の皆さんと考えました。

平成23年度 第2回講演会 2012年2月18日（土）実施

演題：「陰の教育（シャドー・エデュケーション）— 教育と平等を考える」（日本語講演）

講師：ウォルター・P・ドーソン 先生 国際基督教大学（ICU）教養学部・大学院アーツサイエンス研究科准教授

概要：アジア諸国を中心として、受験競争の激しい国々では塾や家庭教師など、いわゆる「陰の教育（シャドー・エデュケーション）」が必要とされています。こうしたことを踏まえ、陰の教育を受けることが教育の平等にどのような課題を投げかけているのか、大学進学に求められる力とは何か等について考えました。

平成24年度 第1回講演会 2012年9月15日（土）実施

演題：「2人の娘を育てて - 子育ては自分育て」

講師：小木曾 道子 先生 海外子女教育振興財団外国語保持教室・アドバイザー・海外渡航前配偶者講座講師

概要：「親が変われば子どもは変わる」という言葉があります。ご父母の皆さん方が日々の子育てのなかで、気づきながらも、実行に出来ない事など具体的にお話させていただき、家庭で実践していただき、思春期の難しいお嬢さんたちと、少しでもよいコミュニケーションができたらと参加者の保護者の皆さんと一緒に考えました。

平成24年度 第2回講演会 2013年2月16日（土）実施

演題：「わが子を幸せに導く哲学 - 未来のわが子に会いに行く」

講師：高野 成彦 先生 大妻女子大学社会情報学部准教授

概要：『子どもはかくあるべし、親はこうすべし』といった『義務・必要』の点から、子どもに接するのではなく、刻々と変化し、成長していく子どもの自然な理想の成長した姿を、必然的な姿としてイメージしながら、改めて、親の子どもへの接し方について、様々な角度から考えてきました。

平成25年度 第1回保護者セミナー 2013年9月7日（土）実施

演題：「フランスの言葉・文化・生活 - 人生の新しい扉を開ける時」（日本語講演）

講師：國枝 孝弘 先生 慶應義塾大学・総合政策学部教授（文学博士、フランス・トゥールーズ大学）

概要：“グローバル”という言葉を耳にしない日はない昨今ですが、「英語=グローバル」という視点だけでは、世界を捉えることはできません。多文化共生という視点に立った時に、文化の土台である様々な言語を学ぶことには非常に大きな意味があると思います。こうした観点から、フランス語を学ぶことの意味、英語以外の言語への興味を持つことの大切さ、さらにSFCで行われている先進的な教育を具体的に紹介していただきました。

平成25年度 第2回保護者セミナー講演会 2014年2月22日（土）実施

演題：「医療ガバナンスと今後の日本の社会 - これからの社会で求められる医療とは」

講師：上 昌広 先生 東京大学・医科学研究所・先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携部門・特任教授

概要：東大・上研究室が行っている積極的な活動、特に震災後の福島での活動の紹介を通して、新しい社会を切り開いていくためのネットワークの大切さを伺いました。また、日本の超高齢化社会、極端な医師不足、医療の偏在などの社会問題に対して、どのように取り組むか。中高生こそ、幅広い視野と価値観を身に着ける大切な時期であることについて、具体的なデータを示してお話し下さいました。「それ学は、人の人たる所以を学ぶ」（吉田松陰）の言葉に象徴されるように、人を育て、繋ぐことこそが今、求められていますと。